

前奏 黙想	讃美歌 II-156 めさめよ、わがたま
讃美歌 28 わがたま、たたえよ	入会式 日本基督教団信仰告白
祈禱	566 使徒信条
主の祈り 564	献金
聖書 エレミヤ書 1:4~8	讃詠 547 いまささぐるそなえものを
使徒言行録 2:14~18	黙禱
讃美歌 355 主をあおぎ見れば	頌栄 540 みめぐみあふるる
説教 『預言者も若者も私たちも』	祝禱
祈禱	後奏

「わたしはあなたを母の胎内に造る前から、あなたを知っていた。母の胎から生まれる前に、わたしはあなたを聖別し、諸国民の預言者として立てた(エレミヤ1:5)」。神からこう告げられると、たいいていの人には腰が引けてしまうだろう。預言者エレミヤでさえそうなのだから。「ああ、わが主なる神よ、わたしは語る言葉を知りません。わたしは若者にすぎませんから(1:6)」。一般に若者は未熟で厚顔なものだが、遠い昔の若者の立場は弱く、経験浅く無知で、何事かを語るには不十分だと思われていた。

五旬祭の日に聖霊が降り(使徒 2:1~4)、諸国の言葉が入り交じり(2:8)、その場は混沌となり、沸騰していた(2:12)。そんなただ中で「ペトロは 11 人と共に立って、声を張り上げ、話し始め(2:14)」、ヨエル書を引用してこう語った。「わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたたちの息子と娘は預言し、若者は幻を見、老人は夢を見る。わたしの僕やはしためにも、そのときには霊を注ぐ。すると、彼らは預言する(2:17~18)」。預言は神の御言葉、幻と夢は神のヴィジョン。これら神からの重要なメッセージを「息子、娘、若者、老人、僕、はしため」という未熟で不完全な者が受け取る。

神託を受けるにふさわしいのはどんな人だろう。神の律法に精通し、敬虔にして無私、寛容で人望があり、社会や世間を知っている者が思い浮かぶ。教会においてもそうした人が役員に選ばれ、偏りある牧師を助けるのが常。しかし聖霊が注がれるのは、未熟な若造や、衰えていく老人らに、だ。

神から「お前さんを聖別し、預言者にするよ」と言われ、エレミヤは「ああ、わが主なる神よ、わたしは語る言葉を知りません。わたしは若者にすぎませんから(エレミヤ1:6)」と答えた。それでは、もう若者ではない私たちだったらどう答えようか。構文をよく見ると「若者であるゆえに言葉を知らない」のではなく、「言葉を知らない…若者だから」となっている。「若者」はいわば後づけの理由で、老人でも僕でもここに該当するのではないか。エレミヤは「ああ、わが主なる神よ」と驚き感嘆し、とっさに「若者だから」と理由を付けて召命を拒否した。これは、謙虚や謙遜なのだろうか。

若者は経験が乏しく、冷静な判断力や責任なども心もとない。若者のエレミヤは確かにその通りだろうが、彼はそこに留まり、そこに拘泥し、その狭さに愛着さえもっていた。これに対し神の命令がエレミヤの言葉に対応して語られる。「若者にすぎない=若者にすぎないと言ってはならない(1:7)」、「語る言葉を知らない=わたしが命じることをすべて語れ(1:7)」。つまり自分の能力や状況などを見通しにしないで、ただ神から示される「霊・風」に従えばいい。言い換えるなら、「私」を私自身の狭い領域に閉じ込めることなく、神の言葉をこの身に響かせ、狭い「私」から私が解放されるのだ、と。

若いエレミヤが預言者にされることも、聖霊降臨で「息子、娘、若者、老人、僕、はしため」が預言し幻を見ることも、私たちが聖霊に吹かれて自由になっていくことも、神の御手で私たちの奥の奥がしっかりと掴まれているから。主なる神はエレミヤにこう語り、私たちにもこう語りかけている。

「わたしはあなたを母の胎に造る前から、あなたを知っていた。母の胎から生まれる前に、わたしはあなたを聖別していた(1:5)」。私たちの命は過去へ遡っても永遠、未来に向かっててもまた然り。

なぜ若者や老人か 若者は未熟 老人は衰えているから 息子や娘 僕やはしためには自由がない 彼らの器に注がれる聖霊は濁らない だがひび割れから漏れる 空になった器が聖霊を迎え入れる

6/2 は礼拝後に役員会、カレーの日です。5/29(水)1:00~3:00 教会カフェ開店、ぜひ皆さんお越し下さい。5/28~29 東海教区総会、青柳均さんが出席。牧師の動き:5/28~30 全国教誨師大会(札幌)。

礼拝堂・集会所の住所: 408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ: 408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

eメールは komechan.olive@gmail.com HP は「日本基督教団八ヶ岳教会」で検索して下さい。